

真説・日本の
金型産業論

甦れ！世界が憧れる
“Made in Japan”

一般社団法人日本金型工業会
金型産業戦略会議【編】
横田悦二郎【著】



真説・日本の **金型産業論**

甦れ！世界が憧れる
“Made in Japan”

一般社団法人 日本金型工業会 金型産業戦略会議【編】 横田悦二郎【著】

いま**始動**する、
「**金型産業補完計画**」

単なる生き残りでは
終わらせない持続可能な
成長産業への進化！

日刊工業新聞社

～あなたが なぜ この本を読まなくてはならないのか～

「真説・日本の金型産業論」

～甦れ、世界が憧れる“Made in Japan”！～

単なる生き残りでは終わらせない——持続可能な成長産業への進化！
いま始動する、「金型産業補完計画」

なぜ「**金型づくりは日本人のお家芸**」と言われるのでしょうか。それは、日本人のDNAに刻まれた「**こだわりの精神**」があるからです。まるで人の意識を超えて共鳴しあうように、この精神は世代を超えていまの日本人に受け継がれているのです。

すべての人類はアフリカを起源とし、そこから世界中へと拡がりました。約4万年前に日本列島へたどり着いた縄文人は、1万年以上もの間、ほとんど外部と交わることなく、独自の感性や美意識を育んできました。その遺伝的特性は現代の日本人にもY染色体「D1b型」として色濃く残っており、この日本人特有の遺伝子は、繊細さ・没頭力・集団調和志向といった特徴を持っていると言われています。日本人がアニメ、刀剣、ウイスキー、そして金型づくりにおいて世界から高い評価を得ている背景には、この「**こだわりのDNA**」があるのです。

金型の基本的技術は、金型から同じ部品を大量に生産する“たい焼き”のような転写技術であり、その品質が製品や部品の寸法・形状・表面仕上げといった要素を左右します。つまり、金型づくりには製品に要求される以上の精度が求められ、何度も微調整を重ねながら完璧が追求される、まさに「**高いこだわりの精神**」が結実したものづくりなのです。

また、私たちの生活を支える自動車やスマートフォンなどのあらゆる量産品は、すべて金型から生産されていると言っても過言ではありません。近年、国会でも議論されている経済安全保障法において特定重要物資に指定されている半導体、蓄電池、医療機器、光通信部品、航空機部品なども、**金型なしでは製造できません**。にもかかわらず、日本の暮らしを支え、「お家芸」とまで言われてきた日本の金型産業はいま、大きな岐路に立たされています。

かつては戦後の高度成長を牽引し、“Made in Japan”の象徴ともされた日本の金型産業。しかし時代の変化とともに、国内需要産業の海外進出、部品の共通化、工作機械や3DCADの進歩による技術の均質化が進み、加えて旧態依然とした不当取引の横行により、適正な利益が得られない構造が続いています。その結果、多くの金型産業人が「もうやっていけない」「将来に希望が持てない」と自信を失いつつあるのです。

さらに、一部の政治家・行政・報道関係者の中には、「金型は海外に任せればよい」といった国の安全保障を無視した意見も散見されます。もちろん、金型は量産の根幹であり、なくなることはありません。しかし、それは単に「生き残っているだけの産業」に過ぎず、若い人材も入ってこず、設備投資も進まず、やがて衰退してしまいます。

こうした厳しい現状を踏まえ、2018年（H30）に日本金型工業会の会長に就任した小出悟氏が「日本の金型産業はまだまだ世界で戦える」という信念のもと、「**日本の金型産業を持続可能な産業とする事業**」を立ち上げました。その中核として設けられたのが「**金型産業戦略会議**」です。ここでは、業界の有識者が集まり議論を重ね、多くの関係者からの意見も取り入れながら、日本の金型産業の未来像について検討を重ねてまいりました。

本書は、その議論の節目、**第一ステージの成果として取りまとめた**ものです。執筆を担ったのは、戦略会議のメンバーであり日本金型工業会の学術顧問でもある**横田悦二郎先生**。「**世界で一番金型を知る男**」として“Dr. Mold（ドクター・モールド）”と世界の金型関係者から呼ばれている横田先生が、日本のみならず世界中の金型産業を長年にわたり見つめてきた経験と、戦略会議で検討された内容を融合させ、日本の金型産業の「真の姿」と「これから」を描き出しています。

本書の目的は、業界内外に蔓延するネガティブな現状認識に対し、あらためて日本の金型技術が持つ本質的な強さと可能性を示すことにあります。実は誰も気づいていなかったのですが、日本の金型産業は追い詰められながらも、こだわりの精神によって、すでに「**世界に再攻勢をかけられるだけの実力**」となる金型技術・現場力を備えつつあるのです。ただし、それを活かすためには“**あと一歩**”が必要な状況です。

そこで本書では、「**真説・日本の金型産業論**」と題し、日本人という民族が持つ“こだわり”という強みを起点に、日本の金型産業の本質的な強さを明らかにします。あわせて、政策担当者・金型産業人、それぞれが取るべきアクションを示し、さらに“攻めの産業”として脱皮するための未来戦略をダイナミックに提示しています。

さらに、**その“あと一歩”を補完**し、日本の金型産業を真に持続可能な成長産業へと押し上げる実践的なプログラム——「**金型産業補完計画**」——の全貌も明らかにしています。

これは、単なる「生き残り」の物語ではありません。

これは、「再起動」と「反転攻勢」の物語です。

いまこそ、「世界と戦える日本の金型産業」へ！

本書が、その起爆剤となることを願っています。

本書は、これまで金型について知らなかった方々、現在、日本の金型産業に関わる金型産業人の皆様、そして政治家・行政・報道関係者の皆様に向けた一冊です。もちろんご自身に関係する章だけをお読みいただいても構いませんし、もし全体に興味を持って全ての章を読んでいただければ、これほど嬉しいことはありません。

とりわけ、同じ**金型産業人の皆様には、「業界ワンボイス」の思いを共有**する気持ちで読んでいただければ、きっと日本の金型産業は再び成長・発展を遂げると信じています。そして、その未来を支えるのは、こだわりの精神（DNA）を受け継いだ若い力です。彼らが次々とこの世界に飛び込んできてくれる未来を、私たちは願ってやみません。

目 次

第1章 金型とは 金型を知らない方へのキホンのキ

- ・日常生活維持になくてはならない金型
- ・金型技術の進化は新製品を誕生させる鍵！
- ・さまざまな金型とそれぞれの違い
- ・日本の金型は世界一！
- ・金型の原理技術は“切れ味技術”と“転写技術”
- ・金型の製造工程—金型はどうやって作られるのか？

第2章 日本のモノづくりの牽引役「金型産業」

- ・金型産業が抱える課題
- ・課題解決のためになすべきこと

第3章 経済安保の鍵は金型産業にあり

- ・金型産業は日本の経済安全保障のための戦略産業
- ・金型産業の重要性
- ・地元経済に雇用を生む金型産業
- ・金型産業の将来ビジョン

第4章 金型産業の将来に向けて

- ・金型産業を輸出産業に！
- ・OODA手法で意識改革を！
- ・貿易収支の鍵は金型にある認識を！
- ・断捨離を行え！
- ・金型産業のPRを積極化せよ！

終 章 モノづくり産業の鍵は

- ・金型産業が握る
- ・機械技術は技術の原点
- ・日本に残すべき機械産業とその懸念
- ・金型産業は日本の持続性のあるモノづくり産業の鍵！
- ・金型産業は日本のためにできた産業！
- ・金型で甦れ！世界が憧れる “Made in Japan”

一般社団法人日本金型工業会

金型産業戦略会議（第一ステージメンバー 2022年～2024年）

委員長	小出 悟	株式会社小出製作所	代表取締役社長
委員	岩淵 学	共和工業株式会社	代表取締役社長
委員	鈴木 教義	株式会社鈴木	代表取締役社長
委員	山田 徹志	株式会社日章	代表取締役社長
委員	米谷 強	株式会社米谷製作所	代表取締役社長
委員	山中 雅仁	株式会社ヤマナカゴーキン	代表取締役社長
委員	横田悦二郎	一般社団法人日本金型工業会	学術顧問
委員	中里 栄	一般社団法人日本金型工業会	専務理事

※当時の役職名